

# 平成 28 年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園おかだまのもり

## 1. 本園の保育目標

★ 幼児部	★ 乳児部
① 自分でよく考えて、意欲的に行動することも	① 心身ともに健やかでよく遊ぶことも
② 思いやりのある優しく温かな心を持つことも	② 基本的な生活習慣を身に着けたことも
③ 逞しく健康な心と体を持つことも	
④ 気持ちの良いあいさつができることも	

## 2. 今年度の重点目標

◇ 子どもが自ら遊びを選択し、心から『楽しい！面白い！』と五感を震わせて感じる事が出来るような実体験を大切に、挑戦しながらも自然をより身近に感じて遊び込めるような環境整備を進める。
◇ 保護者と保育教諭が手を携え、子どもの成長を共に見守り・励まし・喜び・課題を乗り越えられるようまた、保護者の気持ちをしっかりと聞き出す、聞き上手になり信頼関係の構築に努める。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保護者への対応 ～園庭改造を始めとした、保育方針の保護者理解を深める～	子どもが育つ環境を大切するため、何故園庭改造が必要か、何故見守ることが大切なのかということ、園長だよりやウェルカムサタデーなどの機会を有効に活用し、遊びの大切さも加えて何度も細かく発信した。その結果、子どもが園庭やコーナー活動に夢中になり「園庭が楽しい」という子も増えたことにより、保護者の理解も得られ、保育教諭も楽しみながら保育を進められた。
子どもへの対応 ～子どもの心に寄り添い、成長を見守り・見取る保育の在り方～	子どもが主語となる保育を目指し、子ども 1 人ひとりと心を通わせて、子どもの意欲・気付き・創造性などを大事にする見守る保育を進めた。子ども自身で考え意欲的に行動できるよう工夫したことで、子どもが夢中になって遊んでいる姿が見られるようになった。しかし、保育教諭自身の理解と実践にはまだ課題が残る。子どもの意欲が湧きたつ仕掛けづくりの必要性をより理解し、子どもが十分に遊び込める環境設定の配慮を心掛けていきたい。
保育の質向上のため、園内研究を充実させる。	7月に行った園庭整備は、子どもの捉え方・見守る姿勢の重要性に気付ける大きなきっかけとなった。更に、乳幼合同での研修や他園の園庭情報の回覧などを行い、学びを深めた。また見守る保育についてなど、園長から月に1～2回程度の自己啓発となる文書を配布し、資質向上に努めた。
自然体験による育ちの支援	畑活動のボランティア、冒険クラブの協力で自然体験活動を深められた。

## 4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

年度当初より、保育の在り方、保育教諭の役割など、子ども中心・あそび中心のこどもの城を目指すべく、過去に囚われない考え方や目の前の子どもたちをしっかりと見ての保育を進めるよう、学び合いながら保育を進めてきた。その結果、子どもたちの意欲向上と遊び込める姿が少しずつ見られるようになってきた。更に学びを深め、子どもたちの育ちが保てるよう尽力したい。また、乳児部・幼児部との連携の必要性や重要性も訴え続けたことで、合同園内研修をきっかけに、互いにより良い保育を考えるようになった。乳児の生活・幼児の生活の違いについても理解が深められるよう、特に幼児部担任教諭は、乳児部での生活体験を昨年に引き続き行った。その他、保護者の理解を得られるよう、育ちがしっかりと伝わるような手紙内容に留意し、時には直接訴えるなどして、アプローチしていったことで、園の考えが浸透しつつある。
---

## 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	支援の必要な乳幼児への対応のため、環境を整え、各関係機関との連携を図り、保護者にも細かい対応を心掛けたが、人的環境の面で課題が残る。

## 6. 関連事業

○一時預かり事業実施	・保育日数～267日	・登録者数～214人	・延利用者数～5,991人
○園開放、子育て支援事業の実施	「こぐまクラブ」～年7回	ちびっこおかだままつり	1回
○未就園児親子教室「つぼみ組」火・水・木	年間23回		
○幼小の連携～伏古北・丘珠・栄南小学校との交流			